

## 第6回委員会安曇野市黒沢洞合自然公園整備検討委員会 議事概要

令和5年12月20日開催

15:00~17:00 安曇野市役所本庁舎 4F 大会議室

○:委員意見 →当日回答

## 1. 基本設計検討資料について

## (1) 造成・園路広場計画について

○駐車場の舗装はどのような想定か。

→園路部分は土系舗装で、駐車スペースは現在の駐車場と同様に砂利敷とする想定である。不具合が生じればアスファルト舗装にすることも考えられるが、排水計画を見直す必要が生じる。

○区画線はないということか。

→トラロープによって設けることは可能。

○盛土と切土の量は釣り合う想定か。

→釣り合うように検討しているが、実施設計でさらに細かく検討していく。

## (2) 用水利用・雨水排水計画について

## ① 雨水排水と用水利用の系統について

○既存は黒沢川に放流していたがどうなるのか。

→用水は池を經由して既存の放流先に接続する。公園整備によって変化した雨水浸透量の余剰分を浸透処理する。

○雨水を池に入れることはできないか。

→河川に放流する水は用水のみとなっており、雨水排水とは区別されているため、混ぜないほうがよいと考えている。

## ② 池・泥だめ機能付流路について

○池に人が入って遊ぶようなことを想定しているか。自然体験の場としては入れるようにしたほうがよい。

→南農生も人が池の中に入ることを想定しており、安全面を考慮して水深を浅めに設定したほうがよいという意見があった。

→常時入れるようにするか、日や場所を限定して入れるようにするかなどによって、管理面に影響が生じる。池の底部をどのようにするか、草を刈る頻度も検討する必要がある。

○常時入れるのが理想、5つある池のうち限定できでもよい。

○池の底部の構造は現状のベントナイトでも機能しており、渇水時期でも池の水は維持されていた。泥をすくい上げることを考えればコンクリートを使ってもよいのではないかと考える。

○既存池の上段はベントナイトシートの上に土を入れて植栽したが、下段の池はト口箱に植栽した。ト口箱による植生管理はよかったが、泥が堆積することによって、ト口箱から植物が箱の外に出てしまった。泥をすくい上げやすくして堆積ないように管理

すれば、ト口箱による植生管理はよいと思う。

○泥をすくうことによって泥の中に生息する生物への影響についてはどのように考えているか。

→子どもたちと一緒に泥のなかにいる生き物をレスキューしながら行うことで、泥すくいを作業ではなく活用につなげていくのがよい。泥すくいは必要となるため、泥すくいしやすい構造にするのがよいのではないか。

○既存の池で泥すくいを行ったことはあるか。

→行ったことはない。

→既存の池の設計時の深さと現在の深さを比較することで、これまで堆積した泥の量を算出することができる。

### (3) 植栽

○マンサクは自生しているか。自生している種が望ましいと考える。

→北黒沢には自生しており、マンサクを好むウラボシジミが多く生息しているため、洞合周辺に自生しているか定かではないが、公園内にあってもおかしくない種である。

### (4) トイレ整備

○おがくずの入れ替えはこれまで行っていないのではないか。維持管理業者がいないのではないか。

→現在はニューテックという業者が管理を行っており、点検やおがくずの補充を行っている。

### (5) 案内誘導・その他管理施設計画

○第1駐車場から西側の市道は転回できず、無理にバックで運転すると危険もあるため、注意喚起が必要ではないか。

○山麓線からの公園に入っていく道は入りづらく、現状の道路では事故を起こしかねないため、山麓線からの誘導サインは不要ではないか。

→山麓線からの誘導は行わず、第1駐車場に「これより先Uターンできない」など西側に行かないように注意喚起を行うことを検討する。

### (6) 利活用・維持管理計画

○たたき台としてはよくできている。実際に管理しながらよくしていけるとよい。このように具体的に細かくあげていかないとうまくいかないと思う。また、先ほどあったように管理を活用していくことで楽しんでできるのかと思う。

○時間が経過してから伐採してもよい樹木や何年ぐらいで伐採したらよいかがあったほうがよい。

→時間の設定は難しい面もあり、経過を注視しながら状況に応じた管理をしていくことが必要。おおよその段階に分けて示していく。

○烏川溪谷緑地においても開園当時は伐採したが、現在はそのときよりも茂っている。公園の樹木は切らないほうがよいのではないかという先入観がある。計画のなかで伐採していくことを示しておくことは重要。

## 2. その他

○ボーリング調査はどのような内容か。

→トイレの建築のための地盤調査、浸透枿を想定している2カ所における浸透係数の調査、盛土材料として使用できるかを判断するための土性調査を想定している。

○既存公園のトイレの破損箇所、池の水路の石が崩れている箇所はいつ修繕する予定か。

→業者の対応待ちとなっている。

以上の内容のうち、実施設計段階で必要となる関係機関や関係部局との協議を経て決まる内容は、(2) ②となります。